

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 1 区分

【発行日】平成 19 年 7 月 19 日 (2007.7.19)

【公表番号】特表 2006-527160 (P2006-527160A)

【公表日】平成 18 年 11 月 30 日 (2006.11.30)

【年通号数】公開・登録公報 2006-047

【出願番号】特願 2006-516397 (P2006-516397)

【国際特許分類】

C 0 1 G 9/02 (2006.01)

A 6 1 K 8/27 (2006.01)

A 6 1 Q 17/04 (2006.01)

A 6 1 K 8/29 (2006.01)

【F I】

C 0 1 G 9/02 A

A 6 1 K 8/27

A 6 1 Q 17/04

A 6 1 K 8/29

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 6 月 4 日 (2007.6.4)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

分散媒質中に酸化亜鉛粒子を含む分散系であって、分散系中の酸化亜鉛粒子が、(i) 70 ~ 130 nm の範囲内のメジアン体積粒子径を有し、(i i) 該メジアン体積粒子径より 35 nm 未満小さい体積径を有する粒子が 16 体積 % 未満、及び (i i i) 該メジアン体積粒子径より 57 nm 未満大きい体積径を有する粒子が 84 体積 % 超である、分散媒質中に酸化亜鉛粒子を含む分散系。

【請求項 2】

酸化亜鉛粒子が 80 ~ 120 nm、好ましくは 93 ~ 107 nm の範囲内のメジアン体積粒子径を有する、請求項 1 に記載の分散系。

【請求項 3】

16 体積 % 未満の酸化亜鉛粒子が前記メジアン体積粒子径より 30 nm 未満、好ましくは 25 nm 未満小さい体積径を有する、請求項 1 及び 2 のいずれか 1 項に記載の分散系。

【請求項 4】

84 体積 % 超の酸化亜鉛粒子が前記メジアン体積粒子径より 54 nm 未満、好ましくは 50 nm 未満大きい体積径を有する、請求項 1 ~ 3 のいずれか 1 項に記載の分散系。

【請求項 5】

酸化亜鉛粒子の 524 nm での吸光係数 (E_{524}) が 1.2 未満、好ましくは 0.1 ~ 1.0 の範囲内である、請求項 1 ~ 4 のいずれか 1 項に記載の分散系。

【請求項 6】

少なくとも 30 重量 % の酸化亜鉛粒子を含む請求項 1 ~ 5 のいずれか 1 項に記載の分散系。

【請求項 7】

(i) メジアン体積粒子径が 70 ~ 130 nm の範囲内、(i i) 該メジアン体積粒子

径より35nm未満小さい体積径を有する粒子が16体積%未満、及び(iii)該メジアン体積粒子径より57nm未満大きい体積径を有する粒子が84体積%超、である分散粒子寸法をもつ粒子状酸化亜鉛。

【請求項8】

524nmでの吸光係数(E_{524})0.1~1.0リットル/g/cmの範囲内、450nmでの吸光係数(E_{450})が0.3~2リットル/g/cmの範囲内、360nmでの吸光係数(E_{360})が1.1~2.0リットル/g/cmの範囲内、308nmでの吸光係数(E_{308})が1.1~2.0リットル/g/cmの範囲内であり、最大吸光係数 $E(\max)$ が1.2~2.0リットル/g/cmの範囲内、及び (\max) が363~377nmの範囲内である粒子状酸化亜鉛。

【請求項9】

請求項1~8のいずれか1項に記載の酸化亜鉛又は分散系を含む日焼け止め剤製品。

【請求項10】

(a)(i)メジアン体積粒子径が70~130nmの範囲内、(ii)該メジアン体積粒子径より35nm未満小さい体積径を有する粒子が16体積%未満、そして(iii)該メジアン体積粒子径より57nm未満大きい体積径を有する粒子が84体積%超、という分散粒子寸法を有する酸化亜鉛、及び(b)(i)メジアン体積粒子径が24~42nmの範囲内、(ii)該メジアン体積粒子径より15nm未満小さい体積径を有する粒子が16体積%未満、そして(iii)該メジアン体積粒子径より20nm未満大きい体積径を有する粒子が84体積%超、という分散粒子寸法を有する二酸化チタン、を含む日焼け止め剤製品。